音色を包む雲の様～

わたしたちはこの騒がしい都市の喧噪から逃げるようにイヤホンに閉じこもり、画面に視線を向け続ける。
日常は様々な音色に溢れているというのに。
人工的な音を取り除き、都市に眠る自然の音を住宅に取り込み、快適な空間を作り出していく。
場所により異なる音の響きをここに暮らす人々の気分に合わせて選択でき、同時に外界からの音色が様々な反響を効かせながら室内に伝播していく。
音環境から都市の新たな住宅を提案していく。

01 日常に溢れる音色

生活する中で発生する音は様々ある。乗り物の音や人の会話、洗濯の音に歩く人の足音。普通こうした音は騒音と捉えられるが、ふと耳を傾けると、その音の一つ一つに物語がある。音の特徴をグラフ化し、本当の音とは何なのか分析する。

02 音色の動きと形パターン

住宅内に音の変化をつけることで、日常的な会話を楽しんだり、外からやってくる音色に耳を傾けたり、流れる音楽をよりリアルに感じる。空間構成をパターン化し、それを用いて住宅内部を形成していく。

03 音を取り込む「新」吸音構造

わたしたちが活動しているのは地上であり、そこは様々な人工音で溢れている。そこで、騒音と思われる日常音をシャットアウトし、空から降り注ぐ自然音を取り込めるような構造を形成する。外壁とは別に建築を包み込む外皮を取り付け、それにより地上レベルからの音を吸音する。また、現代の都市は高密度化が進んでおり、近隣との距離が近く、重々しい感覚がある。そのため、雲のような軽量な吸音構造を外壁に取り付けることで、周囲の狭隘な世界にゆとりを持たせる。

複合吸音構造材

メラミンフォーム 10mm 厚
断熱性、難燃性、耐候性

ビニルシートもしくは PPF
（ポリプロピレンフィルム）
0.025mm 厚

芯材：アルミ材（アルマイト処理済）

鋼板（アルミニウム）2mm 厚

ホワイトウール (ポリエステル系ウール)50mm 厚

外装はメラミンフォームを使用し、耐候性に特化させるとともに雲のような白く、実際に軽量のものを使いその印象を強くする。内部は PPF で包まれたホワイトウールを用いる。さらに構造、剛壁とするため、アルマイト処理を施したアルミ材を使用する。